

積極的に情報発信

働きやすさへ活動推進

土木技術者女性の会九州支部は11月28日、福岡市の博多サンヒルスホテルで設立記念式典を開いた。写真、新型コロナウイルス感染症対策を施した上での開催となり、記念講演や記念撮影、交流会を通して会員同士の親睦を深めた。



九州支部は、九州内の建設会社やコンサルタント社員、

行政職員など正会員25人で構成し、支部長は本田頭子福岡県県土整備部企画広報監が務める。西日本支部の一部として活動してきたが、ここ数年で計20人を超える入会があったため、6月の本部総会で九州支部の設立が認められた。設立後、新型コロナウイルス感染症の影響で主だった活動ができず、今回がキックオフとなる。

冒頭、本田支部長は「九州在住の会員数が伸びたのは皆さんのおかげだ。ほかの支部を参考に女性の働きやすさにつながるよう活動したい」とあいさつした。

続いて牛山育子会長が「九州が独立した支部として活動することで、女性技術者がお互いに助け合い、働く環境を改善する一助になることを期待している」と激励した。渡邊弘子前会長は「土木技術者女性の会の歩み」をテーマに記念講演し、女性技術者の知識や社会的評価の向上など、土木技術者女性の会の目的や役割を紹介した。

土木技術者女性の会は、1983年に会員28人でスタートし、37年にわたる活動で正会員344人、サポーター会

員151人、学生会員22人にまで拡大した。さらに、土木学会後援の「デミートマツの土木広報大賞2020」の図

書・雑誌部門で「ドボジョママに聞く土木の世界」が優秀賞に輝くなど広報に力を入れている。

今後の活動について、本田支部長は「まずはウェブを使って会員と交流し、どんな情報が必要なのかを知りたい。また、九州での知名度を上げるために積極的に情報発信したい」と意気込みを語った。

